

血清リポプロテイン-X の診断的意義について

東北大学小児科 鈴木 宏 田沢 雄作
今野 多助

小児科領域において、乳児早期の閉塞性黄疸の診断、特に新生児肝炎 (NH) と先天性胆道閉鎖との鑑別診断は重要な課題として残されている。しかし今日まで多くの努力にもかかわらず確実な臨床上的手掛りは得られていないのが現状である。

Poley (J. Lab. Clin. Med., 1973) らは血清リポプロテイン-X (LP-X) の検出が両者の鑑別に有用であることを報告、LP-X の有用性が検討されてきた。われわれも同様に小児期肝炎患者の LP-X の検出を試み、すでに NH と CBA の鑑別診断に有用であることを報告しているが (医学のあゆみ, 1976, 小児科診療, 1977), その後さらに症例を重ね、検討を行なったので報告する。

I. 対象と方法

新生児肝炎 39 例, 先天性胆道閉鎖 28 例, 合計 67 例であり, 半定量法は LP-X 陽性例 47 検体について実施した。LP-X の検出は Seidel ら (Clin. Chim. Acta, 1971, Clin. Chim. Acta, 1973) の方法により, 免疫電気泳動法を基本としたが, 沈降反応は抗 LP-X 血清による沈降反応の他へパリン沈殿法を併用し, 試料穴の陰極側に生ずる沈降反応を観察した。LP-X の半定量もまた Seidel ら (Clin. Chim. Acta, 1971) の方法に準じ, LP-X 陽性患児血清を緩衝液にて倍数希釈, LP-X を検出しうる最希釈倍数を求めた。

II. 結 果

LP-X は NH 39 例中 15 例 (38%) で陽性, CBA 28 例全例 (100%) で陽性であった (表 1)。半定量法にては, NH では検体全例 4 倍以下にて陽性を示したのに対し CBA では 30 検体中 12 例 (40%) が 8 倍以上陽性を示した (図 1)。この他, NH の 3 症例では初回の検査後 1 ないし 3 週後に LP-X の陽転化を認めた。

III. 考 按

Poley ら (J. Lab. Clin. Med., 1973) は乳児早期に閉塞性黄疸の病態を呈する NH と CBA との鑑別診断に LP-X が有用であると報告している。即ち NH 22 例中 2 例, CBA 16 例全例に陽性と報告しているが, この

表 1 Serum lipoprotein-X in infants and children with liver diseases

	No.	LP-X (+)
congenital biliary atresia	28	28 (100%)
neonatal hepatitis	39	15 (38%)

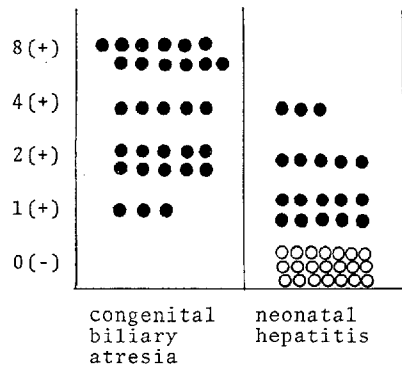


図 1 Semiquantitative determination of lipoprotein-X in infants with liver diseases

成績はわれわれの結果と一致し, LP-X の有用性を裏づけるものと思われる。更に古賀ら (肝臓, 1976) は成人例における LP-X の半定量法による結果を報告しているが, 彼らによると肝内胆汁うっ滞症候群に比し, 肝外胆汁うっ滞症候群では LP-X 濃度が高いものが多い。今回のわれわれの成績でも肝内胆汁うっ滞を示す NH 群では全例 4 倍以下であるのに対し, CBA では 40% が 8 倍以上陽性を示し, 上記の点を支持するとともに, 半定量法の有用性が強調される。NH の 3 症例において LP-X の陽転化を認めたことは LP-X の検討時期について示唆を与えている。即ち可及的早期に LP-X の検出を試みる事が鑑別診断としてより有用と思われる。

IV. 結 論

LP-X は NH と CBA の鑑別診断に有用であり, 陰性例は CBA を除外, 半定量法にて 8 倍以上陽性例は逆に CBA の可能性を強く示唆する。とくに, LP-X の検出は可及的早期に実施することが乳児閉塞性黄疸の早期診断上極めて重要であると考えられる。

↓
検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります
↓

小児科領域において、乳児早期の閉塞性黄疸の診断、特に新生児肝炎(NH)と先天性胆道閉鎖との鑑別診断は重要な課題として残されている。しかし今日まで多くの努力にもかかわらず確実な臨床上の手掛りは得られていないのが現状である。

Poley(J.Lab.Clin.Med.,1973)らは血清リポプロテイン-X(LP-X)の検出が両者の鑑別に有用であることを報告、LP-Xの有用性が検討されてきた。われわれも同様に小児期肝疾患患者のLP-Xの検出を試み、すでにNHとCBAの鑑別診断に有用であることを報告しているが(医学のあゆみ,1976,小児科診療,1977),その後さらに症例を重ね、検討を行なったので報告する。